〔榮花世繼男二〕大臣にしては其意を猿猴の懸物目利
恥をいはねば理が聞えず、元來我等生國は備前の者にて、すりばち、德利をあきなひ、○略下
〔狂歌江都名所圖會四〕　勇々館道艸
摺鉢の備前橋なる辻番にやきの廻つた親父並びつ
〔萬代狂歌集六羈旅〕衣川にて　平秩東作
くだけても伊勢摺鉢のくちもせずのこるは武士のかめゐ片岡
〔饅頭屋本節用集寸財寛〕磨粉木スリコギ
〔易林本節用集寸器財〕摺糊木スリコギ
〔節用集大全七器財〕磨粉木スリこぎ、楷粉木同、擂槌スリき又云雷木
〔物類稱呼四器用〕摺粉木、すりこぎ、江戸にて、すりこぎ、五畿内及中國四國にて、れんぎと云、出雲にて、めぐり、越後にて、めぐり又まはしぎとも云、出羽にて、めぐりこぎ、津輕にてますぎと云、
〔鋸屑譚〕櫺盆、俗にすりばちといふ、櫺槌、俗にすりこ木といふ、又はれい木とも、畿内、中國、四國れん木といふ、櫺の字の轉音なり、
〔和漢三才圖會三十一庖厨具〕擂木　擂槌　俗云須利古木　又云禮以木、字音誤乎、
擂槌用柳木者佳
〔山槐記〕治承三年正月六日、○略中此間供市餅云々、銀盤一枚盛之、柳箸、匕、摩粉木等置樣器、○略中但先是摘切餅五十果入銀埦、相具御膳所獻之埦也以摩粉和摩漿煎獻之云々、
〔薫集類抄下〕麝香○略中
茶碗のつきなどにいれて、いしのすりこぎなくば、やなぎのきのかれたるして、すりくだきて、ふるひて、香ともみなあはせ、○略下

播木